令和７年度放射線安全管理功労・環境放射能対策功労表彰受賞者紹介

（公財）原子力安全技術センター，（公社）日本アイソトープ協会，（公財）日本分析センター及び放射線障害防止中央協議会が原子力規制委員会の後援を受けて行う標記の表彰を，放射線安全取扱部会から推薦した方が受賞し，メッセージいただきました。

放射線安全管理功労表彰を受賞して

松田　尚樹

このたび，放射線安全管理功労表彰を拝受しました。ご推薦くださった放射線安全取扱部会，また事務の労をお取りいただいた皆さまに，深くお礼申し上げます。これもひとえに，部会で様々な活動にかかわることができたおかげと強く思っています。

大学教員として教育，研究に加えて放射線管理を担当することになったとき，一番不安に感じたことは，誰も「師匠」がいないことでした。実務としては当時の管理方法を引き継げば良いのですが，それはそのときのその施設流の管理であり，法令改正や時代に応じて変化していくものです。そんなときに，どこまで管理に積極的にコミットするかはその人次第ともいえるかもしれません。わたしは，どちらかといえば消極的だったように思います。

転機は部会の九州支部委員を拝命したときに訪れました。これを機に何でも相談し，良いところは何でも吸収できる，顔の見える関係がローカルでできたのです。それまでの研究仲間や業者さんとの関係と同じものが，放射線管理の世界でもできるということを知り，それ以来，安心感を持って管理の仕事に取り組むことができるようになりました。そしてその関係は全国に広がっていきました。

また，多くの強烈な個性を持った，そして雲の上の存在のような先生がたから多くを学ばせていただいたのも幸運でした。西澤邦秀先生（名古屋大）は，わたしが初めて年次大会に参加した時の部会長を務められていて，その強力なリーダーシップと先見性に目を開かされた思いでした。山本幸佳先生（大阪大）と五十棲泰人先生（京都大）は，それぞれ卓越した研究背景をお持ちである上に，西澤先生も交えたトリオとしての影響力は果てしなく，理想的な仕事仲間に見えました。大崎進先生（九州大）は，わたしを部会にいざなってくださった恩人であり，研究と管理の両立とバランス配分を教えていただきました。井手利憲先生（広島大）の，わかりやすいロジックを背景にした歯切れの良さは大好きで，こうなりたいものだとずっと思ってきました。森川尚威先生（東京大）には，全国の大学等放射線施設管理の向上や放射線管理行政への提言等，大きなスケールでのものの考え方について学ばせていただきました。様々な局面でお世話になった細田敏和会長（千代田テクノル）は，個人的にも同郷の大先輩としてあたたかく接してくださいました。

原子力規制庁の放射性同位元素使用施設等の規制に関する検討チームでの経験は，規制をつくる背景とプロセスと困難さを身をもって知る機会となり，わたしに新たな視点を与えてくれました。放射線審議会では，諮問答申と文書発出を通じて，国際的な放射線防護の考え方の取り入れについて，現場目線で考えることの重要性を再認識しました。

思えば日々の仕事を通じていろいろなことがありましたが，どこかで必ず何かに繋がり，決して無駄にはなりませんでした。その先には，施設の安全確保だけでなく，社会との接点があったからです。そのためのプラットホームとして部会があることを，わたしは大変力強く感じます。まるで同窓会のように和やかな雰囲気で行われた表彰式を終え，その意を更に強くしました。放射線安全取扱部会の皆さまのこれからのご活躍を，心より願っております。

（長崎大学）